

連携のあり方-①: 理念編



Optim's-pt
(オプティムズ プロジェクト)

代表 上原 久

【目的】

「連携」というキーワードは頻繁に使われる言葉です。しかし、その概念は多義的で、様々な場面で「連携」という言葉が使われています。

この講義では、「個別支援」の観点から連携の理念と実践を整理し、「連携のあり方」について考えます。

【講義内容】

- 1.連携のあり方-①:理念編
- 2.連携のあり方-②:実践編

連携とは...

共有化された目的を持つ

複数の人及び機関(非専門職も含む)が、

単独では解決できない課題に対して、

主体的に協力関係を構築し、

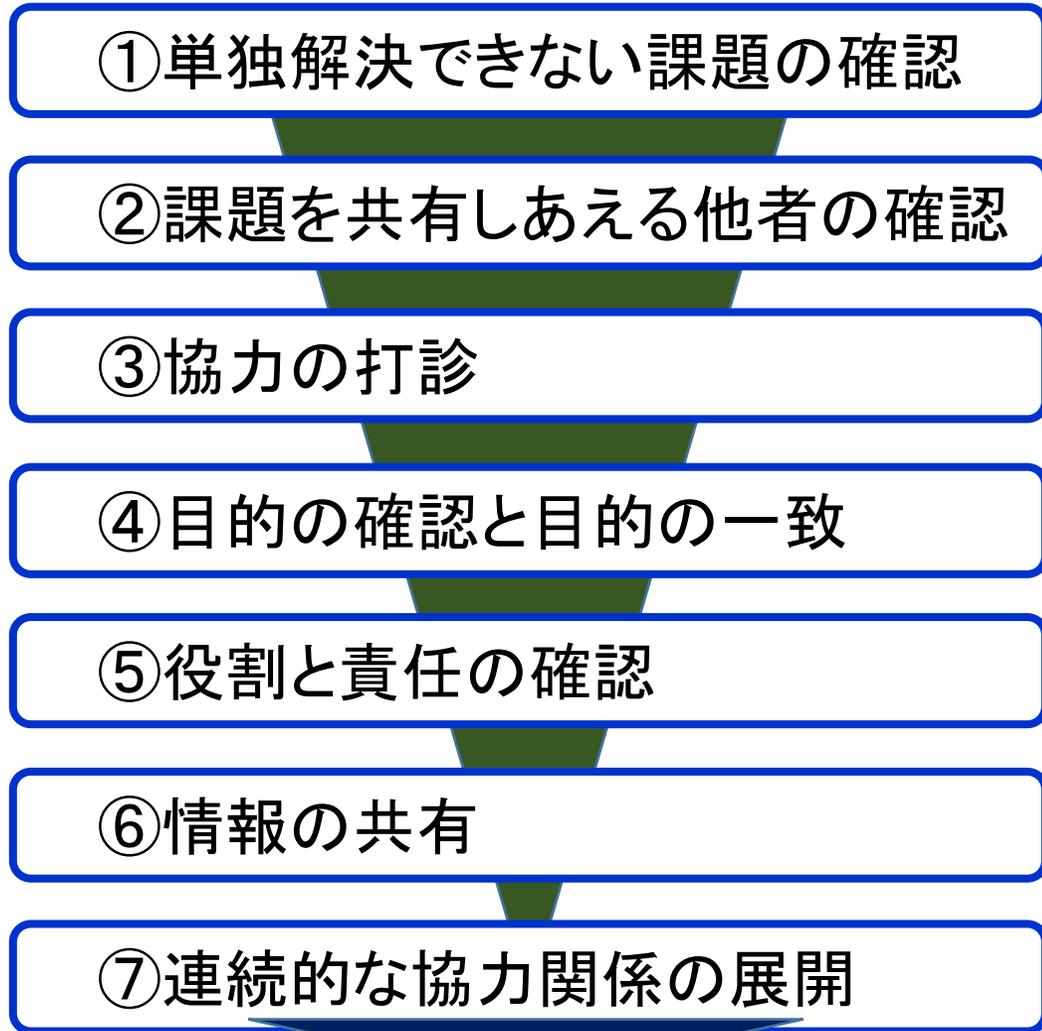
目的達成に向けて取り組む

相互関係の過程である。

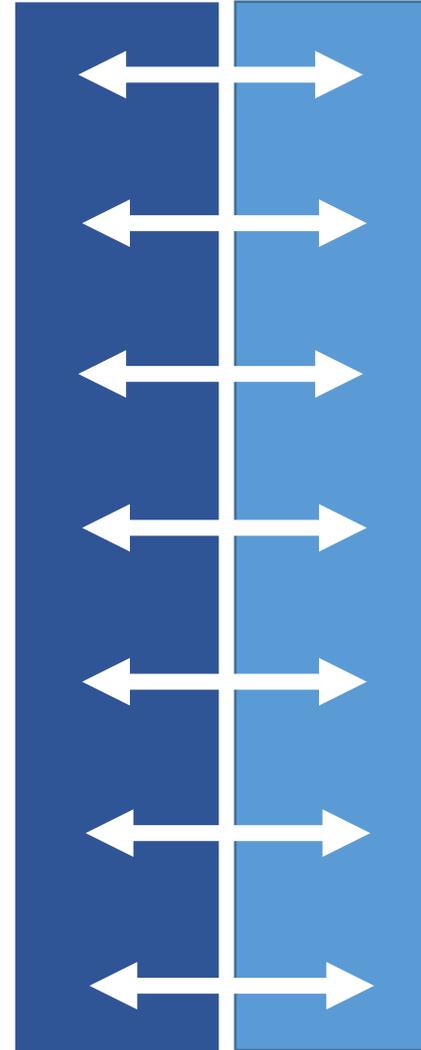
《連携の構成要素》

- ① 共有化された目的
- ② 複数の人及び機関
- ③ 単独解決できない課題
- ④ 主体的な協力関係
- ⑤ 目的達成の取り組み
- ⑥ 相互関係の過程

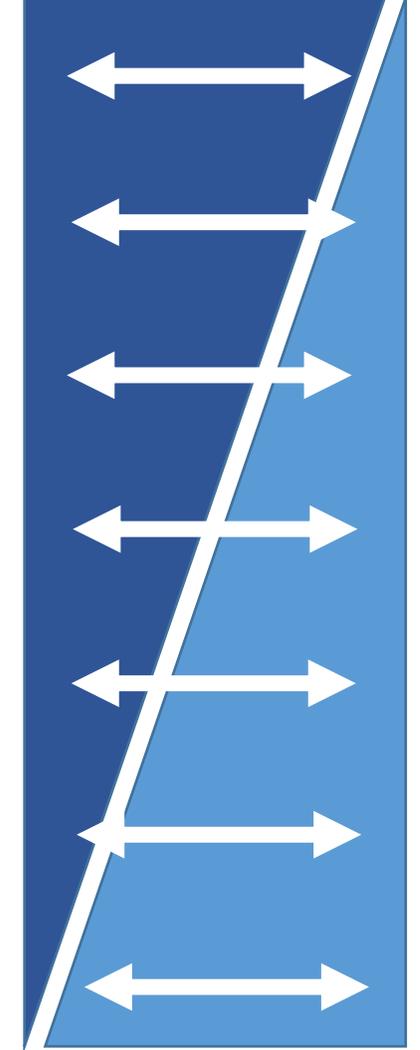
連携の展開過程（7つのプロセス）



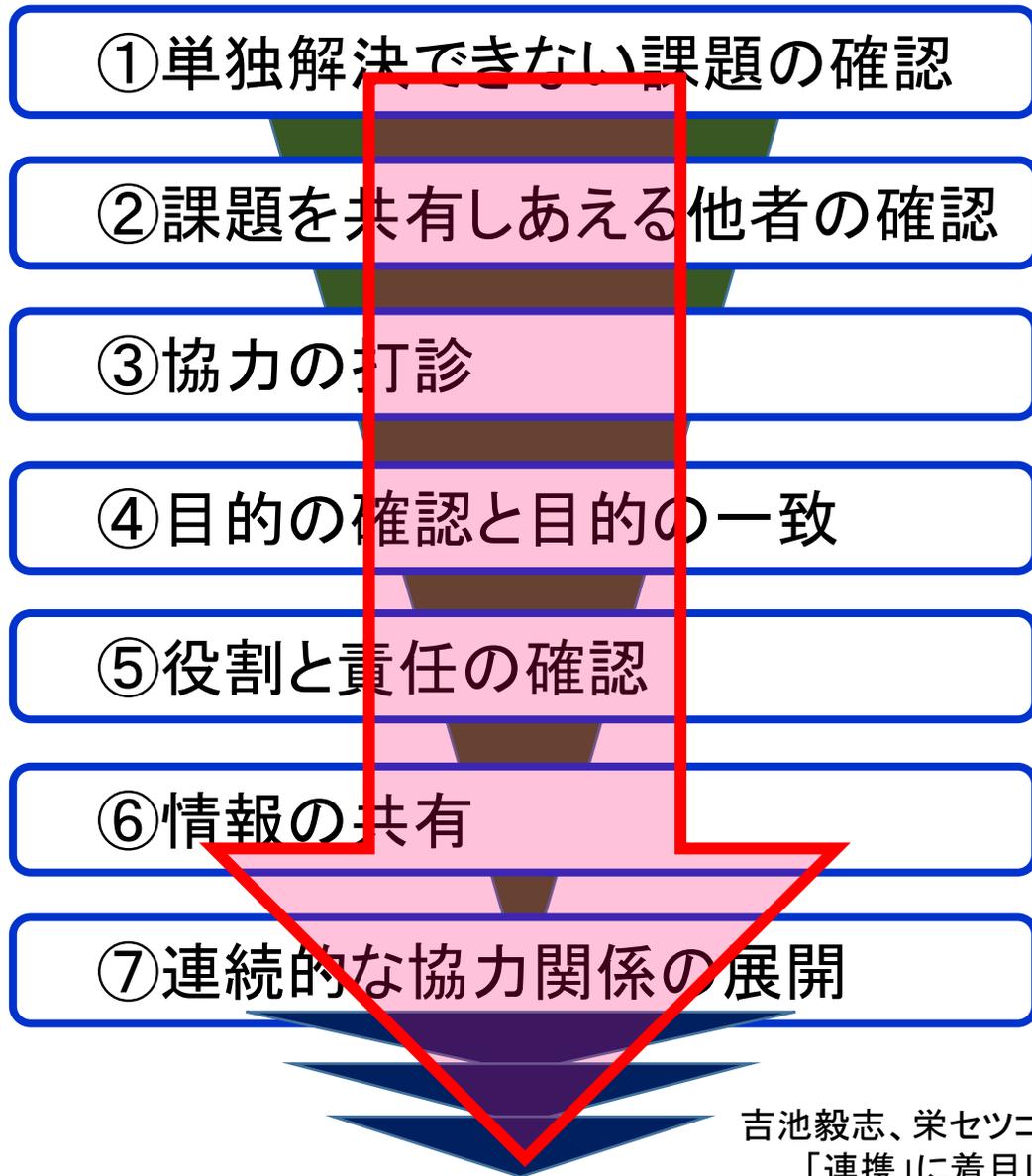
連携元/連携先



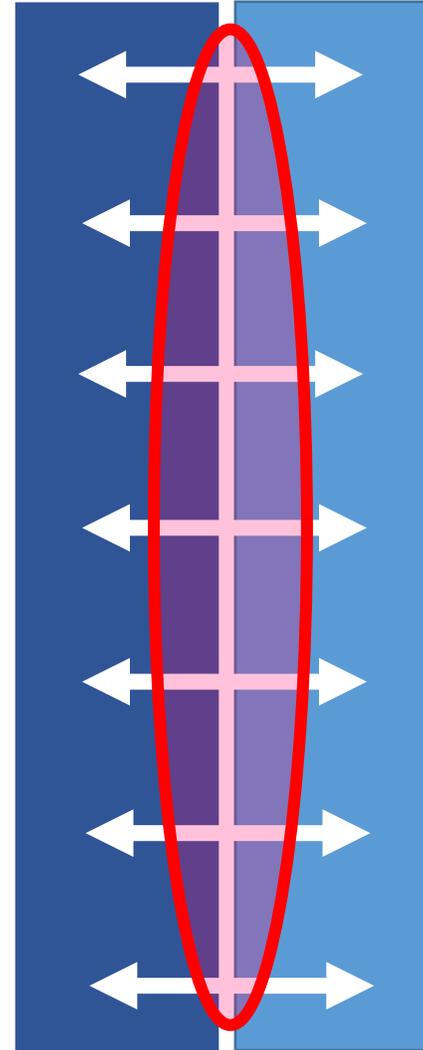
連携元/連携先



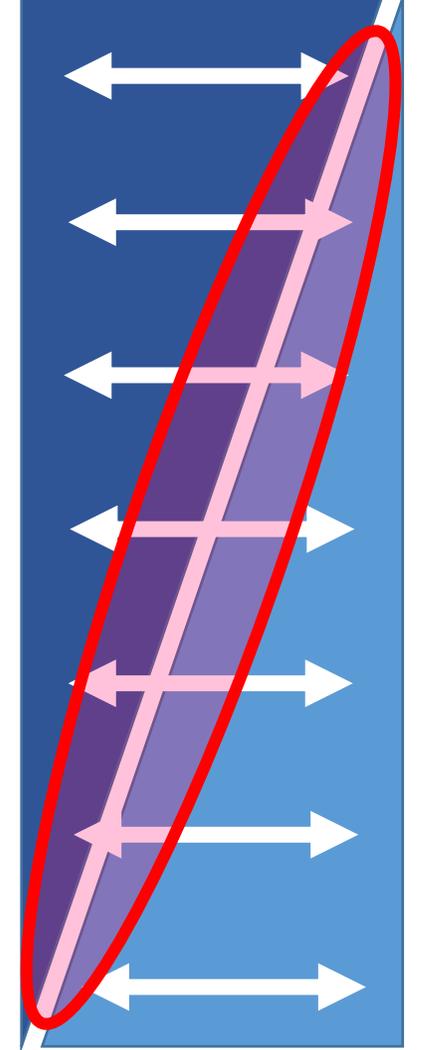
連携する上で問題が発生しやすい部分



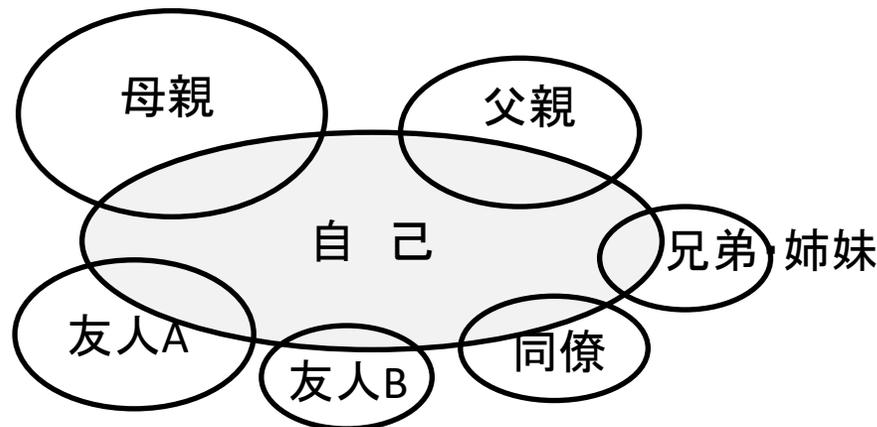
連携元/連携先



連携元/連携先



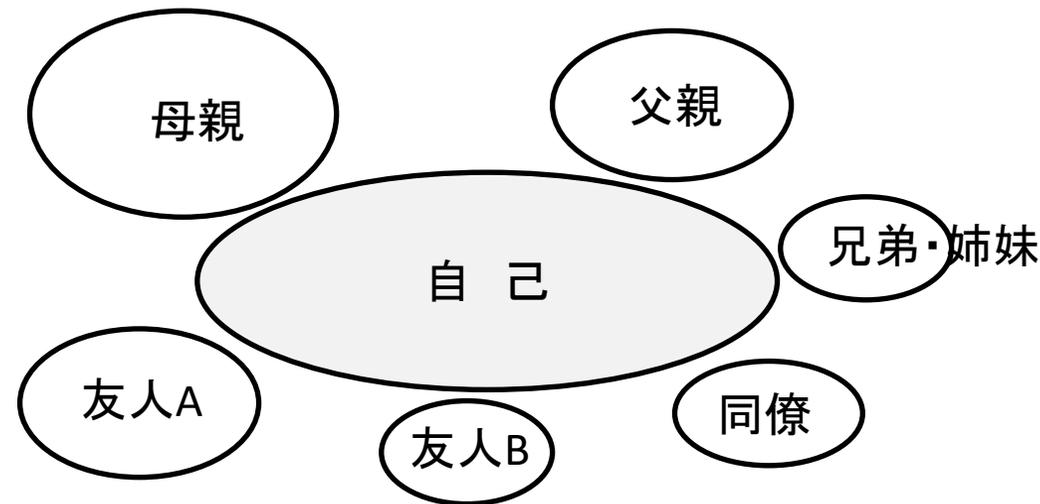
「連携」の阻害要因：文化的自己観



【東洋】相互協動的自己観
Interdependent View of Self

- ・「自己=他者と根元的に結びついているもの」
- ・他者と関係を結び、社会的関係の中で意味ある位置を占めることにより、自己が形成される。
- ・「考え」は、明示的な表現がなくても知ることができるもの(以心伝心)。

解り合えると思っている



【西洋】相互独立的自己観
Independent View of Self

- ・「自己=他者から切り離されたもの」
- ・自分自身の中に確固とした属性を見出し、それを外に表現することで自己が形成される。
- ・「考え」は、明示的に表現されて初めて相手に伝わるもの。

言語化しないと解り合えない

「連携」の阻害要因：コミュニケーション様式（東洋と西洋）

	東 洋	西 洋
自己観	相互協調	相互独立
社会・文化規範	集団主義(1)	個人主義(1)
コミュニケーション形態	高コンテクスト(2)	低コンテクスト(3)
コミュニケーション機能	関係性の維持(4)	情報伝達(5)
情報処理様式	文脈重視・包括的(6)	言語の意味内容重視・分析的(7)

- (1)個と集団の目標や利害が対立した場合、個人主義文化は個を、集団主義文化は集団を優先する。
- (2)言語コミュニケーションは、基本的に他者と共有されているものとして「情報」が位置づけられる。
 話者は正確に他者に情報を伝達する必要はなく、コミュニケーションの受け手が文脈的な情報に注意を向け、発話意図を察する。
- (3)正確に他者に情報を伝達しない限り、それを他者と共有することはできない。発話意図の伝達は話者の責任。
- (4)関係性がすでに存在しているという文化的前提のために、明示的なコミュニケーションなしに達成。
- (5)重要な事柄は、言語的に明瞭に伝えることが重要であり、それが達成されない者は注意に値しない。
- (6)対象やその要素に注目するのではなく、それらの相互関係や全体的な布置を非直線的、かつ弁証法的に定式化する傾向。
- (7)対象や要素を同定し、それらの間の理論的、かつ直線的な関係を定式化する傾向。

「連携」の阻害要因と促進要因

【阻害要因】

- 1.「異なる職種に属するメンバーは、理解不足のため対立しやすい」という意識
- 2.「同質的なメンバーの方が仕事の効率が高い」という意識

【促進要因】

- 1.「これまでのやり方では限界がある」という危機意識
- 2.継続的な「場」の設定(連携のきっかけ作りとして...)
- 3.継続的な学習(連携が進む水準に必要な知識の獲得)
- 4.小さくてもやりやすいところからはじめる
(危機意識を共有できる少人数→大きな方向性の共有→大がかりな連携へ展開)

多様性のマネジメント

連携の促進要因:「顔の見える関係」とは…

顔の見える関係

信頼できる関係

(信頼感をもって一緒に仕事ができる)

人となりが分かる関係

(どういう考え方をする人で、どういう人となりが分かる)

顔が分かる関係

(会ったこともない人たちの顔がとりあえず分かるようになる)

促進要因:「話す機会がある」
日常的な会話や患者と一緒に
見ることを通して、相手の性格、
長所・短所、仕事のやり方、
人となりが分かる

「顔の見える関係」を超えて…

価値観を共有できる関係
(価値観を相互に尊重し共有できる)

顔の見える関係

信頼できる関係
(信頼感をもって一緒に仕事ができる)

人となりが分かる関係
(どういう考え方をする人で、どういう人となりが分かる)

顔が分かる関係
(会ったこともない人たちの顔がとりあえず分かるようになる)

重層的支援会議

促進要因:「話す機会がある」
日常的な会話や患者と一緒に
見ることを通して、相手の性格、
長所・短所、仕事のやり方、
人となりが分かる

連携のあり方-①: 理念編 まとめ

1. 連携の定義とプロセス

問題が発生しやすい部分がある

2. 連携の阻害要因:

文化的自己観・コミュニケーション様式

3. 連携の促進要因

多様性のマネジメント

顔の見える関係⇒価値観を共有できる関係
